



唯一の定住・移住マガジン

田舎暮らしの本

★ 発売日 毎月3日発売

★ 発行部数 100,000部

★ 創刊 1987年9月

★ 仕様 A4判無線綴

田舎暮らしに憧れる都会人に、田舎で暮らすためのノウハウを紹介。読者は、数年後の田舎暮らしの準備として、計画性を持って情報を収集している人が多く、本気で田舎暮らしをしたい人であることが特徴です。近年では田舎暮らしに憧れている「エントリー層」が増えるに従い、30代、40代の読者も増えてきました。定住・移住施策を推進する「自治体との連動企画」と「物件情報」を中心に多様な田舎の楽しみ方を提案し、新たな読者の獲得を目指しています。



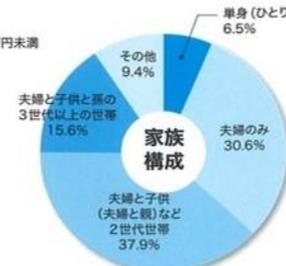
読者データ



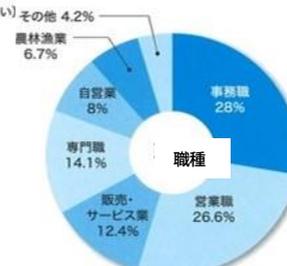
中心年齢層は50代。近年30~40代が伸びており、若い人の関心も高まっています。



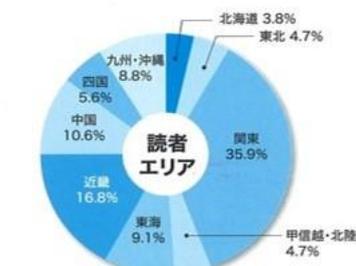
中心となる世帯年収は500万~700万円未満。平均世帯年収に比べてやや高所得です。



子どもがいる夫婦、子どもが独立した夫婦の割合が高いのが特徴です。



会社員が半数以上を占めます。手に職を持っている方、自営業の方も見られます。



関東圏および地方大都市読者も多いのが特徴です。特集によって他の地域の読者が増えることもあります。

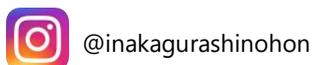


『田舎暮らしの本』編集長 柳 順一（やなぎ じゅんいち）

料金表

スペース	料金 (円)	サイズ	スペース	料金 (円)	サイズ
表4	1,200,000	277×200	4色1P	800,000	297×210
表2	1,000,000	297×210	4色1/2P	450,000	126×175 (枠付き)
目次対向	950,000	297×210	4色1/3P	300,000	266×58 (枠付き)
巻頭コラム対向	900,000	297×210	4色1/4P	250,000	58×175 (枠付き)
表3	800,000	297×210	タイアップ制作費	300,000	1Pにつき
はがき (1色)	900,000	—			

デジタルデータ



フォロワー 1,016人



フォロワー 3,875人

2023年2月6日現在

田舎暮らしの本 Web

<https://inaka.tkj.jp>

2021年4月に自治体の支援策や田舎の不動産情報、先輩移住者の体験談などを発信するWebサイトをオープンしました。1987年の創刊以来、田舎暮らしを紹介する日本で唯一の月刊誌として親しまれてきた本誌のノウハウを活かし、定住・移住情報、子育て情報、物件情報など、最新の田舎暮らしにまつわる情報をお届けしています。



人気コンテンツ

「田舎暮らしの本Web」では、田舎暮らしにまつわる様々な情報を「移住・交流」「趣味・生活」「物件」「仕事」「まち自慢」「イベント」の6つのカテゴリに分けて掲載しています。内容は移住地や不動産の紹介、自治体の移住支援策、仕事、家計、田舎の人付き合い、二地域居住、菜園、DIYなど、田舎暮らしで気になることや憧れることが盛りだくさん。なかでも移住者の体験インタビューによる移住地紹介は、読み応えがあり、一番の人気コンテンツです。

TOPIC

WEB立ち上げの背景には、コロナ禍により、今まで以上に幅広い世代で田舎暮らしへの関心・興味が高まったことがあります。編集部による2020年10月の自治体へのアンケート調査では、コロナ禍以前と比較して「相談件数が増加傾向にある」と答えた自治体が約4割にのぼりました。また若い世代からの問い合わせが大幅に増えたという声も聞かれました。直近の閲覧者数は月間約100万PV。年齢層は『田舎暮らしの本』本誌よりも若干若め。定住・移住に関心のある子育て世代が増えています。

料金

- ①記事転載 20万円
タイアップのみならず編集記事の転載も可
 - ②素材支給 40万円
 - ③取材・撮影あり 80万円
現地ライター＆カメラマンが取材
- ※本誌の田舎情報館（インフォメーション枠）もサービス

詳しくは「田舎暮らしの本Web」媒体資料をご覧ください。



1 自治体のパンフレット制作実績多数！

本誌の取材力を生かした定住・移住者向けパンフレット制作事例は圧倒的な実績数です。鳥取県、大分県など、各自治体から長年信頼をいただいております。企画継続しています。



2 編集長は日本で唯一の“田舎暮らし評論家”メディアでひっぱりだこ！

日本で唯一の“田舎暮らし評論家”として、編集長が自治体主催イベントや関連団体イベントへ多数出演しています。リアルイベントもオンラインイベントも、大変好評をいただいております。コメンテーターとしても数々のテレビ番組に出演！

2022年11月19日
BSフジ「もしもで考えるなるほど
なっとく塾」に編集長が出演。



3 全自治体が注目！ “住みたい田舎ベストランキング”

毎年1月に実施する「住みたい田舎ベストランキング」は一番の注目企画です。全国の市町村を対象に編集部が独自に田舎暮らしの魅力を数値化、部門別にランキング形式で紹介しています。選ばれた自治体は、各メディアでも話題になります！



4 物件情報に定評あり！

毎号掲載している物件情報は本誌の鉄板企画です。古民家から、お手頃物件、リフォーム物件、行政分譲地、空き家バンク、別荘リゾート、ログハウスなど幅広く紹介し、実用情報として高い人気があります。



主な本誌出演（起用）メンバー



『田舎暮らしの本』編集長
柳 順一（やなぎ・じゅんいち）

1969年神戸市生まれ。1993年宝島社入社。『田舎暮らしの本』、パソコン本、『別冊宝島』などの編集部を経て2008年6月より現職に。田舎暮らしや移住関連の専門家として著名であり自治体での講演、マスコミの取材などにひっぱりだこです。



田舎暮らしライター
山本一典（やまもと・かずのり）

1959年北海道北見市生まれ。1985年から田舎暮らしの取材を始め、日本でただ一人の田舎暮らしライターとして活躍。『田舎暮らしの本』では、創刊当時からの取材スタッフとなり現在も執筆中。2001年から福島県都路村に移り住み、農村内部で田舎暮らしのさらなる可能性を模索しています。



人カ社

ライター中山と和田、カメラマン阪口による旅とDIYを得意とする3人組ユニット。本誌連載の「人カ工房」では、自ら小屋やテーブルをDIYで作り、その様子をコミカルな文面でレポート。読者に圧倒的な人気を誇っています。